育成 モノづくり人材 Vol. 19

福島県立福島工業高校

現場に近い設備で実習

福島県立福島工業高校は「実社会に貢献する人材の育成」を教育方針に掲げ、地域に根ざし、ともに歩む工業高校を目指している。

「単に優れた技能者でなく、将来は地域の文化や風土までも継承できる人材を育成し、地域社会の発展に寄与したい」と内田貞俊校長は話す。全日制では就職する生徒の4割強が地元企業に就職。大手から中堅中小企業まで幅広く求人が寄せられ、その多くが指定校求人という企業との厚い信頼関係を築いている。

内田校長

「即戦力として就職現場で活躍できる人材の育成―現場に近い実習」。同校が推進する指導方針だ。その一環として、6年ほど前から地元企業の高度熟練技能者を学内に招き、直接、より現場に近い設備や道具の使い方、仕事の仕方を学ぶ実技指導を実施している。対象となる科目も機械科での溶接や旋盤、フライス加工から建築科の技能士を招いた大工仕事までと分野は多岐にわたる。

高度化する現場への対応として、2009年に最新のNC付5軸マシニングセンターやCAD・CAMなどの周辺機器を他校に先駆けて導入した。内田校長は「基礎的な技術を学ぶとともに、日々、進化する設備への順応性も求められている」と、あくまで現場に添った教育の大切さを強調する。

【DATA】▷校長＝内田貞俊氏▷所在地＝福島市▷学科構成＝機械科、建築科、環境化学科、情報電子科、電気科▷総定員＝全日制820人、定時制72人▷主な実習設備＝5軸マシニングセンター、汎用旋盤、フライス盤、CAD／CAM、シーケンス制御実験装置、材料試験機、圧縮成形機など▷主な進路＝IHI、NOK、福島キヤノン、東北電力、一条工務店、会津大、神奈川工科大、千葉工業大、日大、東北工業大など

▲スーパー技能士から旋盤の指導を受ける生徒

就職活動を優位に導き、スキルアップにもつながる資格の取得も奨励している。特にジュニアマイスター顕彰には全校を挙げて挑戦している。

評価対象の各種国家資格や検定などで取得した合計点数により、ゴールドやシルバーの称号が与えられる。同校からは毎年、40人前後の生徒がいずれかの称号に認証されている。内田校長は「今後も職場にやりがいを持てる進路指導に徹する」としており、生徒本位の教育姿勢を継続する構えだ。

（福島支局長・阿部義秀）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社